

「EQUIOS-Pre4m」による大手MISベンダーとの技術提携に合意 ～面付けモジュールをライセンス供給～

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区)のメディアアンドプレジジョンテクノロジーカンパニー(社長：藤澤 恭平)はこのほど、当社が提唱する「EQUIOSNET」コンセプトの下、“End to End Automation”(全工程の自動化)の実現を目指し、国内の大手MISベンダーである株式会社オーリーブ(本社：東京都文京区／代表取締役：白井 慶吾氏)、株式会社トスバックシステムズ(本社：香川県高松市／代表取締役社長：松村 俊幸氏)の両社と、面付け機能およびJDFに関する技術提携に基本合意。2010年早々に両社へのソフトウェアのライセンス供給を開始します。

日本国内の印刷業界では現在、ワークフローのコストダウンに有効なPDFの普及率は約30%、自動化とコスト管理を実現するJDFワークフローにおいては10%程度にとどまっています。そのため、受注、制作、工務、製版、印刷、後加工など、各工程で使用されている機器間の、データによる連携や効率化が十分に進まず、制作コストを引き下げられないという課題を抱えており、このことが他のメディアと比べて印刷の価格競争力や費用対効果の低下を招く要因の一つとなっています。

これらの課題を解決するため当社は以前から、ワークフロー RIP「Trueflow SE」ユーザーに向けた「出力の手引き」の発行や、株式会社メディアテクノロジー ジャパン主催のトレンドセミナーの開催などにおいて、アドビ システムズ社とのパートナーシップにより、PDFへの移行を積極的に進めてきました。これに加えて今後は、JDF化によるワークフローのさらなる自動化を推進。今回、当社のワークフローのコア技術(SWC：SCREEN Workflow Core)のソフトウェア・モジュール・ライブラリーの中から、最新の「Trueflow SE Ver.7 EQUIOS-Pre4m」の面付け機能とJDF機能のモジュールを、オーリーブ社の「プリントサピエンス」、トスバックシステムズ社の「ひだりうちわ」に対してライセンス供給を行う技術提携に基本的に合意しました。これにより、両社のMISであらかじめ指定された折り・とじのストリッピングパラメーターを含むJDFによるCTPワークフローとの連携が可能になります。また、このJDFは当社の「Trueflow SE Ver.7」だけでなく、同パラメーターに対応する各社のCTPワークフローでも使用できることから、合わせて国内シェア70%以上*を占めるオーリーブ社、トスバックシステムズ社のMISを所有する印刷会社において、MIS-ワークフロー間の面付けの自動連携が可能となります。従来は、営業および工務(MIS)、制作、製版および刷版(CTPワークフロー)の3つの工程でそれぞれ面付け指示や担当者が必要でしたが、今回の技術提携により、営業または工務担当者がMISに受注を登録するときに折り・とじのカタログから必要なパターンを選択し、ストリッピングパラメーターを含んだJDFをMISからCTPワークフローに転送。CTPワークフローにおいて自動的に面付けが発生するため、スムーズに仕事が流れることとなります。これにより、工程間の省力化や指示データの再入力によるミスの軽減が図れるほか、ポストプレスの加工情報と処理結果など、実績データのMISへの集約がより一層進みます。

当社は、10月6日(火)から10日(土)まで東京・有明の「東京ビッグサイト」で開催される総合印刷機材展「JGAS 2009」において、「プリントサピエンス」「ひだりうちわ」と、「Trueflow SE Ver. 7」がJDFによって連携するテクニカルデモンストレーションを実施します。また、初日の10月6日(火)の午後1時から当社ブースにおいて、今回の技術提携の詳細を発表します。

●本件についてのお問い合わせ先

大日本スクリーン製造株式会社 メディアアンドプレジジョンテクノロジーカンパニー ビジネス統轄部 マーケティングコミュニケーション課：
Tel 075-414-7610 Fax 075-417-2705 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目

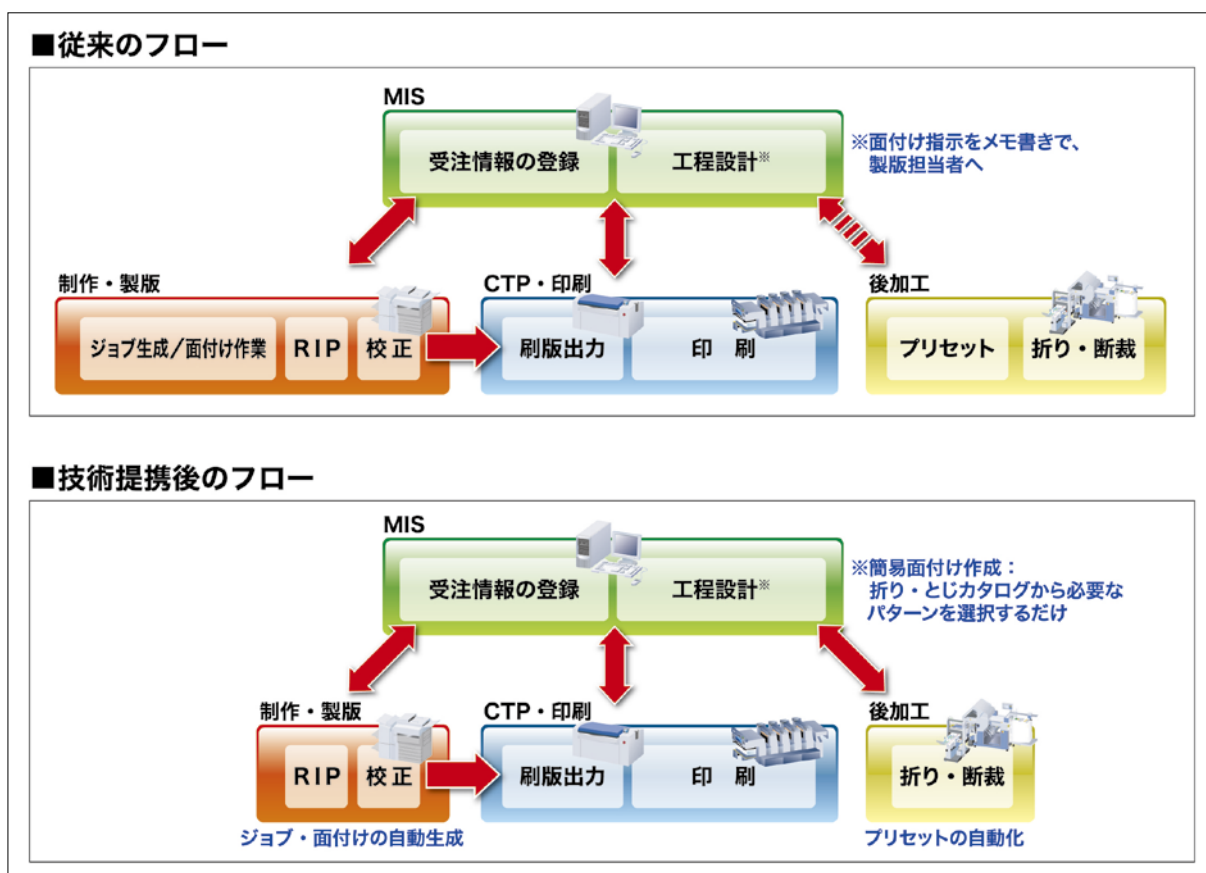
当社は今後も、オリーブ社とトスバックシステムズ社の両社との技術提携を通じて、JDFワークフローの普及を推進し、日本国内の印刷業界の活性化に貢献していきます。

※ 当社調べ

■ 大日本スクリーン製造株式会社

常務執行役員 メディアアンドプレジジョンテクノロジーカンパニー社長 藤澤 恭平のコメント

「オリーブ社、トスバックシステムズ社に当社のソフトウェア技術を評価いただき、技術提携に基本合意できたことは、当社にとって大変喜ばしいことであり、両社のご判断に心から感謝しています。今後は、今回の技術提携を通じて両社と相互に協力し、日本の印刷業界において、JDFワークフローの普及をベンダーの立場からより一層推進することで、業界の活性化に貢献したいと考えています」



☆ この画像の印刷用データ (解像度300dpi) は、下記URLよりダウンロードできます。
(www.screen.co.jp/press/nr-photo/)

<各社からのコメント>

■ 株式会社オリーブ 代表取締役 白井 慶吾氏のコメント

「印刷営業担当者がMISへの受注登録時に、または生産管理担当者が指示を出す際に、折り・とじのカタログから必要なパターンを選択できることは、革命的な合理化といえます。その実現のために、JDFワークフロー内のストリッピングパラメーターでCTPワークフローと連携が可能になったことは、大きな一歩です。国内のメーカー同士が協力し合って、世界標準として広がったJDFが、ローカルな伝統・慣習・文化に適合する形に変化して取り込まれていく、まさに『グローカリゼーション』を実現できることを、大変うれしく思っています」

■ 株式会社トスパックシステムズ 代表取締役社長 松村 俊幸氏のコメント

「印刷業界において、生産設備や生産ワークフローのデジタル化が飛躍的に進む中で、今後の生産・工程管理と原価管理に求められている変化に着目し、MISと生産ワークフロー間でのJDF連携を進めてきました。今回の大日本スクリーンとの技術提携により、MISから面付け情報をCTPワークフローに直接引き渡すことが可能となり、最終工程までの情報一元化、生産効率化にこれまで以上に貢献できていると思っています。今後も、次世代の生産ワークフローに対応した、皆さまのお役に立てるMISの開発をさらに推進していきます」

* 社名の掲載は五十音順

* 記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。